

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人ふくてっく

② 評価調査者研修修了番号

SK18235

SK18234

1201C028（大阪府）

0501B093（大阪府）

1802C021（大阪府）

③ 施設名等

名称：	御殿山ひかりの家
施設長氏名：	龍野真継
定員：	6名
所在地(都道府県)：	兵庫県
所在地(市町村以下)：	宝塚市御殿山2丁目1-67
T E L：	0797-85-4452
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	2001/11/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 三光事業団
職員数 常勤職員：	5名
職員数 非常勤職員：	2名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（ウ）	幼稚園教諭
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（エ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	全個室 6室 8.40㎡
施設設備の概要（イ）設備等：	和室（13.3㎡）、フリールーム（4.4㎡）、リビングダイニング（50㎡）
施設設備の概要（ウ）：	事務室（21㎡）、相談室（25㎡）
施設設備の概要（エ）：	浴室（10㎡）、洗面所（4㎡）

④ 理念・基本方針

【法人の理念】子どもと家族に寄り添う施設を目指して
 【法人の基本方針】①子どもと家族を支え寄り添える施設 ②地域における子育て支援の役割
 ③子どもの権利擁護への積極的な役割 ④子どもの虐待の防止とネットワークづくり ⑤子どもの自立・自助支援の充実
 【施設の理念】私たちは「子どもの権利」を保証し常に子どもたちの想いに耳を傾けながら共に歩み成長する姿勢を保ちます。
 また、地域の子どもたちと家族を支え寄り添うことができる施設を目指します。
 【施設の基本方針】
 1 子ども権利条約に謳われた子どもの権利を保障し子どもの最善の利益を求めます。
 2 子どもたちの心と体の豊かな成長と発達を支えます。
 3 子どもたちの自立・自律・自助を支えます。
 4 子どもと家族を支え、常に寄り添う姿勢を保ちます。
 5 地域家庭の子育てを支え多くの方々と協力してより良い在り方を考えます。

⑤施設の特徴的な取組

御殿山ひかりの家は、2002年に設置された地域小規模児童養護施設です。住宅そのものの外観、自然光を充分に取り入れた明るい室内、そして吹き抜けを中心として1階の共用スペースと2階の子ども用個室を配置してプライベート空間を大切にしつつ連帯感が感じられる設えとなっています。6名の子どもたちは現在6歳から短大生までの男女混合です。落ち着いた環境の中、小さなグループの利点を活かして一人ひとりが大切な存在として、職員とともに“家庭”を形成しています。ひかりの家では児童家庭支援センター「こそだてサポートひかり」を併設するほか、24時間子育て電話相談「ハッピートークたからづか」にも取り組み、地域のすべての子どもの養護に取組んでいます。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/4/25
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2019/9/5
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成 28年度（三光塾本体施設と一体で評価）

⑦総評

【特に評価のできる点】

1. 養育支援の記録が詳細に残され、朝礼等の場で課題が共有されています。同時に、振り返りや適切なSVを施す機会ともなっており、チームとしての連携とサービスの質が担保されています。
2. 優秀な人材を広い範囲から確保する取組を実施するとともに職員一人ひとりを大切に育てやりのある職場づくりを進めています。
3. 24時間電話相談（ハッピートークたからづか）を実施して地域の福祉ニーズを把握するとともに、相談に応じています。併設の児童家庭支援センター（こそだてサポートひかり）が地域の里親支援や出前講座を積極的に実施しています。
4. 子どもをルールで縛ることなく、担当制の職員が一人ひとりの子どもに寄り添って、共生関係の中で、子どもの主体性を重んじて親身に養育するなかで、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めて、基本的欲求にも応えています。
5. 標準的な実施方法として「養育マニュアル」が整えられており、その各項目に制定の意図、具体的な実施方法、そして職員個々の振り返りの欄も用意されており、見直しの仕組みを内在した生きた指標となっています。
6. 一人ひとりの子どもに対して丁寧なアセスメントが、組織的に実施され、これに基づいた自立支援計画が策定されています。
7. 子どもの権利擁護に関する取組や、子ども自身に他者の権利に正しい理解を示す取組が徹底しています。
8. 一人ひとりの子どもの生育の歴史が「〇〇ちゃん日記」に綴られ、子どもに楽しく振り返りながら生活のつながりを意識させ、不安の軽減を図りながら、ここの成長に応じた支援を施しています。
9. 集団的な性教育ではなく、一人ひとりの子どもの発達段階に応じて担当職員が丁寧に対応しています。
10. 子ども間の暴力、いじめ等に対して、その予防や適切な介入について、小規模ユニットの人的、物的環境が好ましい取組に活かされています。
11. 発達の状況に応じた学びや遊びの場を用意するとともに、ボランティアや塾の活用など、様々な取組で学習支援を行っています。
12. 担当職員が子どもに寄り添う中で、子どもの意向を把握した上で、情報提供や助言に努めて、子どもの最善の利益に叶う進路の自己決定を支援しています。

【改善を求める点】

1. 事業計画や養育・支援の開始・過程における取組について、子どもたちや保護者への丁寧な説明の取組が行われていません。
2. 職員一人ひとりの、公正で透明性ある評価と、それに基づく処遇など、総合的な人事管理の仕組みが求められます。小規模な事業所の良さと良好な人間関係がありますが、小規模ゆえに職員の負担も大きく、養育支援の高機能化・多機能化に備えた、職員育成の取組を含めて、本体施設との連携の中で克服すべき課題があります。
3. 地域との関わり方についての基本的な考え方や、学校教育等への協力についての基本姿勢の明文化が求められます。
4. 職員と子どもたちのコミュニケーションはしっかりとれており、子どもの満足度は一定把握されていますが、一方向の汲み取りではなく、形式的かつ定期的なアンケートなどの実施が望まれます。
5. 心理療法を必要とする子どもについては、職員が付き添って三光塾本体施設の心理療法に通っています。三光塾本体施設と連携して適宜にケースカンファレンスを行っています。職員に対する研修やスーパーバイズの体制は十分ではなく、今後はいっそうの連携強化が求められます。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の受信において、前回受診した際の指摘事項を職員たちが改善し、さらに良き支援を目指して取り組んできたことを評価していただきありがとうございます。
課題としては「人事考課制度」や「事業計画を子どもや保護者に説明」はできておらず、これは施設長、管理者側の責任が大きく今後、他法人や専門家の意見も参考にして改善していきたいと考えています。また、今回はじめて小規模児童養護施設を分けて評価してもらい本体施設から距離があることでの職員への負担感や連携の難しさについても見直していきたいです。
「子どもと家族に寄り添う」という法人理念を児童養護施設に落とした時に、私たちのすべきことは？
専門職集団として、子どもたちの個々の背景をしっかりとアセスメントし、具体的な自立支援計画に基づき、日々の生活の中で養育方針を全職員で共有し実践していく。子どもたちは担当職員を信頼し日々の生活の中で大切にされる経験を積み重ねて自己肯定感を育んで将来を考えていく。今後もそんな支援を職員皆で考え取り組んでいきたいと思ひます。

⑨第三者評価結果（別紙）

評価結果表（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 御殿山ひかりの家（以下「ひかりの家」）は、兵庫県宝塚市からの土地提供と建設費支給を受けて2002年に開設された地域小規模児童養護施設です。社会福祉法人三光事業団がその運営にあっており、運営の理念・基本方針は三光塾本体施設と同一ですが、宝塚市の設置要件として、地域の子育て支援機能（児童家庭支援センターと24時間電話相談）が盛り込まれており、地域小規模施設であることとあわせて、ひかりの家の特徴をなしています。そうした基本背景は職員にはよく浸透していますが、子どもや保護者への周知には、なお工夫が求められます。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】 ひかりの家は、先駆的な地域小規模児童養護施設であり、刺激の少ない家庭的な環境と、固定された担当制支援職員の寄り添いを受けて、良質な養育・支援を実施しています。しかし、そこにおける経営課題の一つは地域支援機能として児童家庭相談支援センター「子育てサポートセンターひかり」、24時間子育て電話相談「ハッピートークたからづか」が併設されていることです。また、ショートステイも積極的に受け入れており、高い利用率を実現しています。そのような、地域福祉を推進する多様かつ重要なミッションを追求する中で、子どもたちの安定した家庭生活との両立を図ることが重い経営課題となっています。さらには、地域小規模児童養護施設の人員配置基準（2.5人）では、到底十分な養育・支援が難しく、ひかりの家では5名の常勤体制で臨んでおり、これが今後の運営コスト面における大きな課題となっています。地域分散・小規模化を推進する先駆的施設として、一層の努力と、こうした現状を社会に発信するボイス機能の発揮を期待します。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

ひかりの家については、前項にコメントしたように、経営環境の大きな課題があります。それは役員間でも共有されているほか、職員にもよく周知されています。ただ、あまりにも大きな課題であるとともに、法人としての解決を超えるものであって、具体的な取組には至っていません。三光塾本体施設に培われている、高度な養育・支援のノウハウや職員育成の仕組み等をひかりの家に活かしていく取組も、今後期待したいところです。いずれにしても、「地域の子育て支援」という明確な経営目標があり、そこに向かって克服すべき課題を明らかにして、具体的な取組を実施していることは高く評価されます。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

社会福祉法人三光事業団として、理事長作成による詳細な中長期計画があります。そこには法人の沿革と特徴、運営の基本理念、目標とする中長期課題が具体的かつ詳細に記述されています。今後は、これにもとづいて、宝塚市が要望する地域子育て支援機能との両立を図る、地域小規模児童養護施設ひかりの家としてのビジョンを明確にした計画の策定が望まれます。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画（事業計画と収支予算）に、中・長期計画（中・長期の事業計画と中・長期の収支計画）の内容が反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

ひかりの家の単年度の計画は、法人の中長期計画を反映して、施設長が三光塾本体施設と併せて策定しています。運営処遇方針から事業、行事計画、職員配置計画、各種会議予定、研修計画、施設環境整備計画に至る詳細な計画は、具体性、実行可能性も問題ありません。ひかりの家からも子育て支援センター長が法人運営会議メンバーとして参加しています。ひかりの家は「一つの家庭」を醸成することを主眼としていますので、いわゆる福祉事業といった明確な目標管理になじまないことは理解できますが、期中・期末において、実施状況を確認、評価することを念頭において、評価の基準を設けておくことが求められます。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

ひかりの家では、ふつうの家庭として安定した日常生活支援を行うべく、固定された職員編成となっています。三光塾の6番目のユニットとして、年度総括がホームでの検討会議で共有され、それに基づいて施設長が次年度計画を策定していますので、そこに職員の意見がよく反映され、職員も理解しています。今後は、本体施設で構成されている各種委員会への連携・参加を促進して、ひかりの家での養育・支援をふりかえりつつ、事業計画に反映することを期待します。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

保護者等へ配布される「三光塾だより」には子どもたちの生活の様子や行事の取組の紹介はされていますが、事業計画の説明が不十分です。事業計画の肝は言うまでもなく子どもの「自立支援」にあります。子どもや保護者等の状況は様々であり、すべての子どもや保護者にとって「自立」が当面第一の目標とは限らないかもしれませんが、であればなおさら、子どもの最善の利益としての自立支援計画と、それを目指す事業計画の周知が求められます。難しい文書ではなく、率直に目指すところを分かりやすく説く工夫を期待します。子どもたちに対しては日々の支援の中で分かりやすく伝えるとともに、頻りに交流ができない保護者に対しては三光塾だよりをひかりの家も含めて拡張し、同時にホームページの内容を見直すことを期待します。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

毎年実施する自己評価、および3年ごとの第三者評価受審によって、改善課題を明らかにし、それに対して職員会議を通じて役割を決めるなど、組織的な改善を実施しています。日常的な養育・支援についても、職員はそれぞれの支援をふりかえって日誌に記述し、毎日の朝礼で読み合わせをして相互に評価と啓発を繰り返しています。このように、3年・1年・日常のサイクルでPDCAが機能していて、自立支援計画の質を向上する取組が機能しています。ひかりの家として第三者評価を受審するのは今回が初めてになります。三光塾本体施設との課題の相違や、連携課題に着目して、その弱点を補いつつ、ひかりの家ならではの特徴を向上する取組を期待します。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

前回の第三者評価受審結果を受けて、これを職員会議で共有しながら、役割と責任体制を明らかにして具体的な改善方法を検討して実践し、3年の間に多くの成果を上げたことが確認できます。短期には改善困難な課題も多いですが、今後とも組織をあげて取り組むことを期待します。
 ひかりの家には、子どもたちの安心・安定した家庭的生活を保持する目標と共に、地域の子育て支援という公的な使命の両立という、困難な課題があります。ひかりの家単独で改善できるものではなく、三光塾本体施設と一体的に取り組むことを期待します。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家は、三光塾本体施設から離れて独立した地域小規模児童養護施設であるとともに、地元行政や管轄の児童相談所から地域の子育て支援や里親委託の推進と支援機能（ハッピートークたからづか・児童家庭支援センター）を付託されています。前者についてはホーム長、後者についてはセンター長を管理者として運営しています。施設長は、三光塾本体施設の、分棟（のそみの家）を含めると5つのホームとともに、第6番目のホームであるひかりの家を統括する立場にあり、その役割と責任は各種の内部文書や広報にも示され、また小規模施設ならではの人員配置上の課題や、事業所内外に発生する様々な事案にも、日常的に介入して、その役割を果たしており、職員への理解を浸透しています。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は法令順守についての理解に努め、取引関係先や各行政関係先等との適正な関係を保持しています。しかしながら法令遵守に関する研修への積極的な参加や職員への周知については、特に市社会福祉法人経営に関する研修の取組みが不十分な状況です。さらに、施設運営に直接かわる法令等はもちろん、福祉こそがまちづくりのキーワードであるという広い視点から、施設長は三光塾において遵守すべき法令等を示し、施設内研修の実施やホームごとに実施する勉強会への参加等、法令遵守の徹底について職場全体で理解するための取組みが求められます。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ひかりの家では、地域小規模児童養護施設であるとともに、地域の子育てをサポートする機能（サポートセンターひかり）とのバランスを図ることが課題となっています。サポートセンターひかりは、法人の社会貢献事業として特筆すべきものですが、地域小規模児童養護施設の特長である、小規模で地域にもなじみ、子どもたちに刺激の少ない落ち着いた生活を保障する面では必ずしも両立するものではありません。そのような中で、施設長は両機能の高い目標を設定して指導力を発揮しています。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

三光塾は、社会福祉法人三光事業団が運営する多様な福祉事業の1つであり、その経営改善や業務の実効性を高めるための分析や議論は、専ら法人理事会が統括しています。施設長は理事会メンバーとして、積極的に関わるとともに、三光塾においては、その経緯を職員に伝えて共通理解を図りつつ、三光塾独自で行える業務改善は積極的に推進しています。とくに、ひかりの家では地域小規模児童養護施設の人員配置（2.5人）を大幅に超える職員配置が欠かせず、常勤5人体制としています。養育支援の質を担保しつつ、経営改善を図ることが大きな課題となっています。今後は、ますます厳しくなる経営環境の下で、さらなる改善の取り組みを期待します。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

人材の確保・定着は、ひかりの家単独の課題ではなく、三光塾全体の課題として取り組まれています。三光塾では、小規模ユニット化する施設においては、職員一人ひとりの存在がとて大きく、優秀な人材確保が急務であるという観点から、職員を(縁故を頼ったいわゆる一本釣りではなく)広範囲から募集する仕組みを構築しています。すなわち、毎年夏前には入職説明会を開催して、施設の養育方針や職員育成システム、福利厚生、キャリアアップ制度などを丁寧に説明しています。さらに職員の定着については、なによりも仕事にやりがいを持てることが大切であり、仕事の中で力をつけていけることを実感できる研修システムを構築しています。そうした結果、多数の応募に恵まれ、より良質な職員を選択的に確保することができています。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

この項目はひかりの家単独で取り組めるものではありません。三光塾本体施設と同様に、働く職員一人ひとりが現在の仕事にやりがいを感じ、自らの将来を描くことが出来る仕組みづくりが問われています。しかしながら、今の所は、職員の専門性や職務遂行能力はじめ職務の成果や貢献度に応じた評価等、明確に定められた人事基準は整えられていません。ひかりの家では期待する職員像に添った個別研修計画において、職員の階層分けやそれに伴う職能のレベルが示されています。そしてこの研修計画書では自己の振り返りから新しい目標設定、さらに評価までのフローになっており、一人ひとりの目標管理シートにもなる内容になっています。これを土台にして採用、配置、異動、昇進、昇格等について職員誰もが理解しやすい基準(数字で示すことが出来るものは明確に示すこと)を定めて運用されることが求められます。現状は、各職員のがんばりを公正に評価してこれに応えるという、風通しのよい人事管理は機能していません。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

ひかりの家においては、ワークライフバランスに配慮した取組は進められており、小規模な職場の人間関係も良好に保たれています。子ども6人に対し職員は常勤5人と人員配置基準を大幅に上回る体制とされていますが、現場では勤務の負担が三光塾本体施設より重いという声が聴かれます。地域小規模児童養護施設の宿命的課題と言えますが、今後は、ひかりの家に限らず、さらに小規模化及び家庭的養護が求められる中、この機会にひかりの家をモデルケースとして小規模施設における就業上の様々な事情を管理者・職員全体で再確認し合い、改善に向け検討されることを期待します。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員一人ひとりの育成については三光塾の目指す職員像に添って、19項の職員一人ひとりの教育・研修「職員の資質向上のためのプラン・個別支援計画」の仕組みで取り組んでいます。ここでは職員個々の目標設定を立てて、中間・期末面接を行い進捗状況や目標達成度の確認を重視しています。この面談は主に主任がスーパーバイザーとして担っていますが、主任の業務は多忙を極め、計画通りには実施されていません。主任の業務過多を緩和し、職員一人ひとりの目標管理のための中間・期末面接が計画通り徹底出来るよう、ひかりの家でもホームが職員一人ひとりの目標管理にあたっていくなど、取組み体制の再検討を期待します。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員の教育・研修に関する基本方針や計画は三光塾の目指す職員像をもとに、毎年度初めに基本的な社会福祉の知識についてをはじめその時のニーズに合った内容をテーマして年11回の研修計画を策定し実施されています。次項の「職員の資質向上のためのプラン・個別研修計画」と併せ、充実した職員研修の体制を確認しました。こうした研修機会は、三光塾本体施設に集中しており、ひかりの家は離れた立地であるとともに、小規模施設の勤務体系上、参加もたやすくありませんが、今後も積極的な参加を図るよう、勤務体系に配慮を期待します。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
(5種別共通)	<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員一人ひとりの教育・研修については「職員の資質向上のためのプラン・個別研修計画」で整えられ、実施されています。その内容は、職員の職責を「入職前職員（採用内定者）、新任職員から中・上級職員、指導的職員、施設長」まで6階層に区分した計画となっています。毎年度初めに個々のレベルに準じ、スーパーバイザーが面談し、研修を計画、実行しています。また、児童養護施設に求められる専門性の習得についても当計画に取り入れられていて、職員一人ひとりが援助技術を向上させて施設全体の養育・支援の質の向上を図る取組となっています。また同時に、職員個々の教育・研修をベースにした目標管理とやりがいを助長する仕組みになっています。ただ、様々な取組が充実している三光塾本体施設に比して、孤立した小規模施設であることもあり、研修機会に十分に対応するための勤務シフトの作成は困難な状況です。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

【コメント】

実習生の受入れについては、三光塾本体施設で十分に行っており、ひかりの家としては取り組んでいません。施設（法人）としてできていない、ということではありませんので「評価対象外」とします。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
<p>① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>この項目は、ひかりの家単独の課題ではなく、三光塾本体施設を含む社会福祉法人三光事業団の課題ですが、運営の透明性を確保するための情報公開は、三光塾の果たす役割、意義をはじめ事業計画・報告、決算情報等、三光塾のしおり及びHPで詳細が公表されています。また、意見、苦情等については法人全体で取組みの苦情解決委員会が置かれ、苦情等の受入れ、対応、解決の内容は三光塾だよりで示されています。しかしながら苦情や相談内容の公表には至っていません。「公開」は無制限の「公表」を意味するものではありませんが、より積極的な情報の公開が求められます。</p>	
<p>② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>この項目も、ひかりの家単独の課題ではなく、三光塾本体施設を含む社会福祉法人三光事業団の課題ですが、経理事務一般に関する事、施設経理事務に関する事などについては事業計画書・事務分掌で示され、職員への周知が図られています。会計処理についても経営コンサルタント会社より助言を受け適正化に努めています。今後も、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営を継続して行くために、定期的に外部の専門家による監査を受けることや内部監査の体制づくりなど、法人としての取組みの再検討が望まれます。</p>	

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>ひかりの家では、一戸建ての住宅に等しいたたずまいであり、また近隣には里親制度に理解ある方もおられ、周辺住民の接し方は三光塾本体施設以上に好意的です。子どもたちもごく当たり前で友達との交流を行っており、施設として特段の取組を要することも無い状況です。本項目が求められるところは十分に具現化しており、高く評価することができますが、こうした基本姿勢を明文化することによって、さらにその実効性を高めることを期待します。</p>	

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアに関する基本姿勢の明文化や、マニュアルの整備は、三光塾全体で取り組まれており、その状況は確認されています。ただ、ひかりの家においては地域小規模児童養護施設であることから、その活用意義は大きくありません。すなわちボランティアの導入の意義は①子どもたちに対する養育支援の厚みを増すこと、②施設の開放性を高めることにありますが、①については、ひかりの家の養育支援方針が固定された担当制職員配置による緊密な関係性による徹底した温かいお世話にあること、また②については、すでに十分に地域に開放されていることがあります。地域の学校教育等への協力の明文化については今後の課題となっています。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

ひかりの家は2002年に宝塚市の福祉施策に則って創設された、地域小規模児童養護施設であり、施設内に24時間電話相談（ハッピートークたからづか）や、児童家庭支援センターを置くなど、公的な機能が併設されています。こうした活動に伴って関係機関や地域資源との連携は、必然的に備わっています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

ひかりの家では、24時間電話相談（ハッピートークたからづか）を実施していますが、その利用頻度は大変高く、福祉ニーズの把握は十分に行われています。また、併設されている児童家庭支援センター（こそだてサポートひかり）では、地域の里親支援や出前講座などを積極的に実施しており、このような様々な実動を通して、地域の福祉ニーズを把握しています。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家では、前項にあげた「ハッピートークたからづか」や「子そだてサポートひかり」のほか、積極的なショートステイの受入れによるレスパイトの実施があり、その社会貢献性は高く評価されます。地域小規模児童養護施設として、地域防災の主導的役割は強く求めるものではありません。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家では三光塾本体施設のユニット制より更に家庭的な環境を重視した地域小規模児童養護施設の中で「施設の常識が世間の非常識」に陥らない様、「子育て支援のめあて」を中心にしっかり子ども達に向かい合っています。三光塾本体施設にある「養育マニュアル」の内容に沿って、以前からひかりの家では取組んできており、職員にも日頃の支援として定着しています。尊重や人権等の配慮に関しては少人数だから可能である日頃の子ども達との触れ合いから必要な対応を実施しており、把握、評価への取組として定期的実施するより手厚く対応出来ています。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

地域小規模児童養護施設で一般的住宅を生活の場とする「ひかりの家」では、子ども達にはそれぞれ個室が与えられ、プライバシーは守られています。ひかりの家独自の規定・マニュアルはありませんが、職員は三光塾本体施設の研修などでプライバシー保護の共通認識は出来ています。子どもには年齢に合わせた説明をし、保護者には入所時にプライバシー保護の説明をしています。建物プランの関係で男女の配置に制約はあるものの家庭的な雰囲気は守られ、施設でのプライバシー保護とは違う、生活の中で守るべき最低限のプライバシーが守られています。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家の情報提供としてはホームページ、しおりが準備されています。宝塚市には地域小規模児童養護施設「御殿山ひかりの家」しかなく、入所の子ども達は児童相談所からの措置入所であり、自己決定という意味では選択する状況にない現状があります。ひかりの家ではショートステイの利用、受け入れも多く、宝塚市への地域貢献にも活用されています。ただ、入所している子ども達の生活の場である住居に他者が入る事の心境の揺らぎに対する子ども達へのケアの配慮は重要な事柄となっています。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

地域小規模児童養護施設ひかりの家に入所する子どもや保護者に対しては「入退所マニュアル」を使って説明しています。ひかりの家入所後の子ども達の様子や過程等を保護者に伝える準備はなく、ひかりの家に来る子ども達の家庭環境は様々で入所後の支援過程や生活状況についての連絡は積極的にしていません。保護者によっては理解が難しい方もいるでしょうが、理念は「子どもと家族に寄り添う施設として」であります。これから検討を願う事として三光塾本体施設が発行している「三光塾だより」の様なひかりの家の行事と近況などを伝えるものを準備し、例え保護者への一方通行だとしてもひかりの家と繋がる発行物の検討を期待します。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家からの措置変更などはほとんどありません。退所する子ども達はひかりの家の近くに入居することが多く、相談や、遊びにひかりの家を訪れる事もあり、その後の関係は良好です。その他、宝塚市では里親制度に力を注ぎ、ひかりの家の子ども達も積極的に週末里親や季節里親などを利用し、ひかりの家とは違う「家族」を体験しています。そこで受けるいろいろな感情、気持ちの動揺等も担当職員がしっかり援助しており、いろいろな形の地域自立が実現出来ています。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

ひかりの家では三光塾本体施設で実施しているようなアンケートによる意見を聴く機会は設けていません。理由として、家庭的な環境で生活する子ども達は、職員との距離も近く、日頃からしっかりコミュニケーションが取れており、日頃の子ども達の思いや意見を職員は聴く事が出来てします。ただ、子どもと職員との関係が良好であっても意見や不満は言いにくいものです。子ども達から素直に意見が述べられる機会を用意し、場合によっては定期的なアンケートなどの実施の検討が望まれます。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

三光事業団の「運営施設における意見申し立てシステムイメージ」という相談機関や連絡先が記載されたものはありますが、掲示や配布はできていません。入所時に「権利ノート」を使って苦情申し立ての方法について説明はしていますが、子ども達の理解の問題や保護者への説明機会が実現しないケースもあり、周知するのは難しい状態にあります。苦情解決という難しい問題、保護者との複雑な関係を考慮する必要がありますが、「苦情解決の方法」については一方通行になるとしても、周知に努める事が望まれます。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

ひかりの家では、定期的に子どもの意見を聴く為の組織的な取組の実施はありません。家庭的な雰囲気の中での職員と子ども達との関係があり、何事もいつでも話を聴き何でも話せる環境を作りカバーしています。相談相手についても、子ども達には担当職員はいるものの、どの職員であれ相談できることは文書にすることなく周知されています。ただ、一方的な「わかっている、伝わっている」と思う事は危うく、子ども達の意見は貴重ですので家庭的なひかりの家だからこそ、容易に誰にでも相談できることをしっかり伝える取組が望まれます。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

ひかりの家では定期的に子ども達の意見を聴く機会を設けていません。子ども達とは日頃から身近で接しており、職員数、子どもの数も少なく、密な関係による子ども達のサインを見逃さない事を心掛け、会話や態度などから声掛けし聴き取ることが実施できています。聴き取り内容によっては日誌などに記録され、少人数である事、家庭的な雰囲気だからできる迅速な対応ができています。ただ、意見を積極的に把握する取組がなく、意見への対応が不十分との判断も出来ません。これからは三光塾本体施設で実施している「聞かせてアンケート」を参考にして、ひかりの家に適した取組みの定着を期待します。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

ひかりの家では一般家庭の様な雰囲気の中で生活しており、施設等とは違い子ども達の安全を脅かす様な事故等は少ない環境にあります。リスクマネジメントの目的は養育・支援の質の向上にあります。様々な環境を過ごしてきた子ども達が集まり、共同生活する場として気を付けなければならない事が多くある中、出来るだけ普通の家庭環境を意識し生活出来ている事は職員のみなさんの気遣いが行き届いている証です。投薬管理が必要な子ども達にも安心であり、しっかり見守りも出ています。ただ、リスクマネジメント規定等はなく、責任者の設置や明確化、リスクマネジメントに関する研修や会議などを実施し、定期的に見直す体制の構築とひかりの家の実態にそくした効果的な取組が望まれます。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

三光塾本体施設の「保健委員会」や年に一度の施設内研修に参加し、感染症マニュアルを共有しています。季節の流行としてインフルエンザ、ノロウイルスなどについても、しっかり対処法が示されており有効に利用されています。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家に隣接して児童館があります。三光塾本体施設の「防災・修繕委員会」に参加し、防災に対して注意しなければならぬことは把握できています。ひかりの家で生活する職員・子供達が災害にあった場合には3日程度の食料備蓄も用意されており、テントや寝袋も準備されています。ただ、その災害時に避難する場所、みんなが落ち合える場所が決められていません。避難訓練も実施されていないので、とっさの時に子ども達の安全を守る手段のルール作りが望まれます。「事業継続計画」(BCP)への取組みについて、ひかりの家に関しては三光塾本体施設の存在が結果的に「事業継続計画」となっています。それは御殿山から小松町へ避難する事で「事業(養育・支援)の継続」が可能となります。その場合の事前対策、訓練の実施が望まれます。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

「養育支援のめあて」を標準的な実施方法として、三光塾本体施設の「養育マニュアル」も参考にしつつ、標準的実施ができています。一般家庭に近い環境の中、“当たり前”の生活を“当たり前”だと感じられる基盤を築こうとしています。標準的実施という事ではありませんが「ルールや決まりで管理しない」を子ども達への関わりの基本概念として職員には浸透されています。日々の養育実施の確認としては日誌にしっかり記入、保管されており、こちらも職員間でよく共有していると評価できます。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

三光塾本体施設と共にホームでの検討会議、ホーム長会議に参加し、養育・支援の方法の検証、見直しなどが協議されています。ひかりの家では日々の日誌記録をもとに、その日の出来事や子ども達の変化などが細かく申し送りされており職員間で共有し「養育支援のめあて」の実施を日常の支援として確認されています。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

ひかりの家では三光塾本体施設と同じく担当職員が「年間アセスメントシート」を作成し職員間で協議をしホーム長、主任の確認後、自立支援計画の策定に取り組んでいます。自立支援計画については子どものニーズ、想いに応えられるよう取り組んでおり、年間を通して大きな変化、変更が必要な子どもは少なく日頃の見守り、寄り添いを大切にしており、家庭的な雰囲気を守られています。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

ホームでの検討会議を経て自立支援計画を立て、決まった時期(年1度)に施設長、主任の確認が実施出来ています。ただ、定期的な評価や見直しについては出来ていません。実際、短いスパンでの計画変更をする事は少なく、子ども達の変化、見直しが必要で変更するというよりは、家庭環境(保護者)の変化による見直しが要因で変更見直しが発生することはあります。その場合も計画を修正するまでは至らず、日誌に記録するに留まり、職員に共有というにはバラツキが心配されます。今後は三光塾本体施設でも検討している定期的見直し時期設定同様の計画が望まれます。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	

【コメント】

ひかりの家では、日誌として日々の記録をまとめており、毎日の朝礼で一時間ほどかけ日誌の読みあわせをして、職員間でしっかり共有しています。ただ、事例や事柄をキーワードで検索、確認する事に苦勞する状況で、過去の対応内容の確認に、時間を要しています。それも今後は三光塾本体施設と同じ情報システムを導入する予定であり、個人情報ファイルの作成にも着手されるとのことで飛躍的に改善されることと期待されます。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。		

【コメント】

ひかりの家では個人情報の取り扱いについての説明が不十分であり、特に保護者との関わりが少ない事から実施できていない状態です。個人情報保護規程による記録の管理体制は、三光事業団の規定により定められていますが、情報提供に関する規程は無く、その対応機会が少ない事もあり、施設長管理のもと情報提供は都度の対応となっています。今後はその対応内容にバラツキが出ない様、対応の記録作成と内容を共有する仕組み作りが望まれます。

内容評価基準（25項目）□

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】
 ひかりの家においては、三光塾本体施設同様に子どもの権利条約に謳われている「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」は、子どもに寄り添い、最善の利益を目指して、守り育てるという理念・基本方針のもとに徹底しています。しかしながら、それらは三光塾本体施設におけるような「聞かせてアンケート」などの“見える”取組ではなく、少人数の家庭生活の営みの中で、ごく自然と行われているため、本評価基準項目の各着眼点について問えば、不十分と言わざるを得ない面は否めません。この項目は「b」評価を許しませんので、「c」評価とせざるを得ませんが、今後はひかりの家の良さである「当たり前な家庭生活」を守りつつ、福祉事業所としての基本的仕組みの整備が強く求められます。

(2) 権利について理解を促す取組		第三者 評価結果
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】
 ひかりの家では、三光塾本体施設におけるような、権利ノート（「三光塾の大切にしていること」）の活用や、「聞かせてアンケート」の取組は十分ではありませんが、子どもの数に比して手厚い職員体制による日々の養育・支援の中で、丁寧に伝えていきます。なによりも、自分が大切にされている日常生活の中に、自然と、そして健全に権利意識を育てることが評価されます。今後は、せっかくの三光塾本体施設の仕組みを、ひかりの家流に柔軟に咀嚼したうえで活用することを期待します。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

ひかりの家においては、三光塾本体施設同様に、一人ひとりの子どもの生き立ちの把握が行われています。また、少人数の家庭的生活中で、きめ細かい振り返りと適切な支援が行われています。ただ、少人数単位での生活ゆえに、各種行事において写真撮影に専念できる職員を配置することが難しく、また、写真を整理してアルバムに整理する作業も遅れがちになっています。アルバムは、子どもたちが自身の生き立ちを知る上で有効だけでなく、職員が絶えず子どもの生き立ちをふりかえるためにも不可欠です。今後は、三光塾本体施設の取組にあわせずとも、ひかりの家の体制でできる手法を立案して取り組むことを期待します。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

子どもに対する職員の不適切な対応は、あってはならないこととして就業規則に定めるとともに、その防止についてマニュアルを作成して職員に周知しています。またそのような事案の発生および発生の恐れある場合の、報告義務等の行動規範や、報告者の不利益回避の定めも明確です。しかしながら、そうした取組を子ども等に説明することは、専ら担当職員に委ねられており、組織としてしかるべく資料を配布若しくは掲示するなどの取組が求められます。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

ひかりの家は、三光塾本体施設から独立した小規模児童養護施設となっており、男女混合の6名に対して現在5名の職員体制をとっています。一人ひとりの子どもに担当職員が付き、日々の生活の中で、1対1の話し合う場を設けて、こどもの意見や要望をくみ取っています。子どもの生活をルールで縛るということを極力避けて、一人ひとりの「やりたい」を実現しています。年齢に応じて設定されたお小遣いや、アルバイトで得たお金の使途や管理については、子どもの発達状況に応じて、主体性を育むよう支援しています。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

ひかりの家で生活する6名の子どもは比較的長期に入所しており、三光塾本体施設のような、入所前の丁寧な取り組み実績を確認することはできませんが、施設的な刺激や緊張のない、安定した生活が保障されており、本評価基準項目が問う趣旨は全うしています。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

ひかりの家では、まもなく退所する高齢児が2名いますが、丁寧なリービングケアが実施されています。三光塾本体施設と同様に、退所者の記録整備は不十分ですが、過去に退所した子どもの動向はよく把握して、アフターフォローしています。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>ひかりの家では、三光塾本体施設と同様に子どもには「何かあればいつでも言っていよ」と、がまんしなくてもよいことを常日頃伝えています。小人数（子ども6名）での家庭的な雰囲気の中で生活が営まれています。担当制の職員が身近で子どもが表出する感情などを理解し対応しています。子どもの問題行動に心理的な背景が見受けられる場合は、職員が同伴して三光塾本体施設へ出向き、臨床心理士による心理療法を受診出来る仕組みがあります。三光塾本体施設における「聞かせてアンケート」は実施されていませんが、それぞれ担当の職員が親密に子どもの疑問や不安に応えています。</p>	
<p>② A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>ひかりの家では、6名の子どもにそれぞれ担当の職員を配し、親密で丁寧な養育支援が実施されています。一日の流れは、子どもの主体性を重視した「養育マニュアル」を基本としており、ひかりの家の養育支援の「意図、想い」が顕われています。子どもをルールで縛るのではなく、なにごと子どもと話し合いを通して、その欲求に応えるようにしています。</p>	
<p>③ A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>ひかりの家では、子どもの年齢や発達状況に応じ、できる・できないに関わらず子ども自らが判断して行動できるよう支援しています。養育支援日記には一日の行動や問題などが細部にわたり記録されており、朝礼等での読み合わせによって職員間で共有されています。</p>	

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの、発達段階に応じたニーズを把握し、自立支援計画に反映して支援しています。ホームに図書や遊具を備えるとともに、放課後等デイサービスの通所や学習ボランティアの導入、塾へ通わせるなどの取組があります。大学生の学習ボランティア、OB職員のピアノレッスンの実施があり、公園や児童館などの地域資源も活用され、学びや遊びの環境は十分に整えられています。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

ひかりの家ではルールや規範を上から押し付けるのではなく、日常の生活支援の中で、社会生活に必要な知識やスキルを身につけていくことを心がけています。生活ルールについても子どもとの話し合いを通じて共に考えさせて設定しています。種々の生活習慣の習得についても、させて学ばせるよりも職員が行うお世話を見て子どもが気づき、自発的な行動を促すようにしています。高校生から携帯電話の所持を認め、中学からネット環境に触れることが出来るようにしています。SNSやネット等利用のリスクについては必要な知識提供も行われていますが、子どもが加害者にも被害者にもなりやすいことについて、子どもを護るための十分な対策が求められます。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家では、三食とも生活支援職員が調理しています。中高生それぞれの生活時間に合わせて適温での提供に配慮がされています。明るく、清潔なリビング・ダイニングは子どものコミュニケーションの場としても活かされています。三光塾本体施設のような嗜好アンケートや残食記録は実施されていませんが、職員は身近に接することによって、子どもの好き嫌いも把握し、出来る限りの工夫を凝らし、また声掛けをし苦手な食材の解消を支援しています。子どもの誕生日には、職員がお祝いのケーキを作り、みんなで楽しむなど、小規模施設ならではの工夫がされています。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ひかりの家では、生活支援の中で子どもの成長に合わせ個別に衣料が提供されています。子どもの年齢に応じて設定された予算の範囲で子どもの好みに配慮した衣類が選択され、それぞれの個性が表出されています。小さな子どもも買い物に同行したり、中高生には自分で購入経験もさせています。衣服の洗濯や管理は、職員がお世話をすることに徹しているため、子どもたちに生活習慣を習得させることが遅れがちです。次項目の居室内の整理整頓とあわせ、こうした生活習慣の習得も大切ですので、適切な支援の工夫が求められます。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

ひかりの家は閑静な住宅地に位置し、内外装共明るく清潔で、人にやさしい素材を使われているほか、床暖房の採用など、子どもたちの生活環境に配慮されています。三光塾本体施設同様に、鍵のかかる個室には子ども同士でも勝手に入らない約束があり、私有の日用品を自己管理できる環境を保障して、「境界線を意識した生活づくり」に配慮されています。小規模施設における男女混合処遇ですので、今後の利用者構成の変化に対応する課題があります。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

ひかりの家では、三光塾本体施設と同様に、医療との連携が図られ、定期的な健康診断とともに子どもの心身の健康状態には常に配慮されています。自己評価には「服薬チェックが抜けている時がある」と、自戒のコメントがありますので、服薬管理の確実性と安全性をさらに高めることが求められます。今後は服薬管理や感染症対策など、三光塾本体施設で実施されている研修にも積極的に参加することが期待されます。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

ひかりの家は、地域小規模児童養護施設であり、年少児から高校生に至る子どもたちにカリキュラムを設けたような集団的性教育は実施していませんが、担当職員が子ども一人ひとりの成長段階に応じて、日常生活支援の場で性に関する疑問や不安に丁寧に応えています。職員の性教育に関する支援技術が求められるところです。今後とも三光塾本体施設で開催される研修への参加を拡大して、資質向上に取り組むことを期待します。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

ひかりの家では、三光塾本体施設と同様に、きめ細かな対応がとられています。日々の支援日誌には子どもの行動や、その背景となる心の動き、職員がした対応などが詳細に記述され、振り返りと職員間の共有が図られています。しかしながら、小規模ユニットであるために、三光塾本体施設のように多様な職員の対応や、様々な癒しの場の提供、被害を受けた子どもの安全確保には限界が感じられます。それでも、小規模ユニットの、低刺激性の安らいだ環境は大きく、子どもたちは落ち着いた日常生活を送っています。心理ケアの専門性については、三光塾本体施設の機能が活かされていることはA20の項目で評価されますが、より包括的な支援体制の強化のために、三光塾本体施設とのさらなる連携が求められます。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

ひかりの家では、小規模の単独ユニットであるため、三光塾本体施設のような組織的で多様な対応や、場の設定には限界がありますが、逆に小規模ケアの特性を活かして、職員は日常生活支援のなかで、子どもの行動背景をよく理解し、職員間でも共有して、チーム一丸で子ども同士の暴力やいじめが発生しないよう取り組んでいます。ただ小規模ユニットのため、多様な癒しの場の設定には限界もあり、都度の対応が最善であったかを不安視するふりかえりもあります。本体施設からの、施設長をはじめとする応援にも時間を要します。今後は、子ども自身の成長を信じた、ひかりの家としてのチーム支援の徹底を期待します。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	

【コメント】

ひかりの家では、心理療法を必要とする子どもについては、職員が付き添って三光塾本体施設の心理療法に通っています。三光塾本体施設と連携して適宜にケースカンファレンスを行っています。職員に対する研修やスーパーバイズの体制は十分ではなく、今後はいっそうの連携強化が求められます。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

ひかりの家でも、三光塾本体施設同様に子どもたちは完全個室で落ち着いて学習できる環境にあります。その上、食事団欒の場は、階上の居室フロアから見下ろせる吹き抜け空間となっており、子どもたちが自然と集まり、職員の見守りの中で一緒に学習する場にもなっています。共用の図書が整えられ、年少児には職員が読み聞かせもしています。学力の低い子どももおり、基礎学力の回復には、公文式を導入しています。そのほか近隣の大学から学生がボランティアで子どもの学習を支援しています。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ひかりの家では、一人ひとりの子どもに担当職員が寄り添い、日々の暮らしの中で子どもの意向を把握した上で、進路選択に資する情報提供と助言に努めています。大学進学や資格取得を目指す子どもには、奨学金制度の活用や関係機関との連携も図っています。学校を中退したり、不登校となるなどのケースでの措置継続はもちろん、進学した子どもの生活の安定を図るために、措置延長や社会的養護自立支援事業にも取り組んでいます。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話している。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ひかりの家では、社会経験の拡大に向けて、アルバイトを認め資格取得を奨励しています。アルバイトでは社会のルールを守ることや責任を果たすことの大切さを学ぶとともに、金銭感覚の習得を期待しています。また資格取得では自立に向けた自信と自覚の芽生えを促しています。もちろん、失敗やつまづきもありますが、成功体験に限らず、失敗体験も大切な成長の糧と考えています。児童養護施設として、子どもに人とかかわりの力を養い、人から愛される存在になってほしいという基本的な考えを徹底しています。従って直接的に就労に結び付けるような職場実習先の開拓などは行わず、自立支援計画に基づいた自立支援を徹底しています。今後は、より具体性をもった自立支援の確立のために、関係機関や企業との連携も見据えた取組が期待されます。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

ひかりの家においては、三光塾本体施設に引けを取らぬ取組が実施されています。ひかりの家には、専属の家庭支援専門相談員（FSW）の配置はありませんが、少人数の子どもに対する手厚い職員体制と、一人ひとりの子どもへの担当制により、各職員にFSWの力量が備わっているようです。今後は、三光塾本体施設に配置されたFSWとの連携を密にして、その実効性を高める取組を期待します。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	

【コメント】

ひかりの家では、前項の評価で記述したように、FSWの配置はないものの、担当職員の努力によって、親子関係の再構築が進められています。しかしながら、個々のケースにおいては難しい課題があり、今後は三光塾本体施設配置のFSWはもちろん、児童相談所や市町村との連携を深めてゆくことが求められます。